

皆さんこんにちは。一年生の皆さん初めまして！

だんだん暑い日が増えてきて薄着でも過ごしやすくなりました。今年度もあっという間に一ヶ月以上が過ぎ去りましたが、いかがお過ごしですか？そろそろ本を読む余裕も出てきたでしょうか～。

さてと。小瀬高校の図書館には小説はもちろんのこと、絵本やら雑誌やらラノベに実用書まで、様々な本があります！そしてなんと、一年間の貸出冊数が多かった人には図書券がプレゼントされるらしいよ！さあみんな図書館へ行きましょー！！

それでは今年も楽しく読んでいただけるようにがんばっていきますので、図書館Timesをよろしくどうぞ！（`・ω・´）

校長先生 おすすめの本！

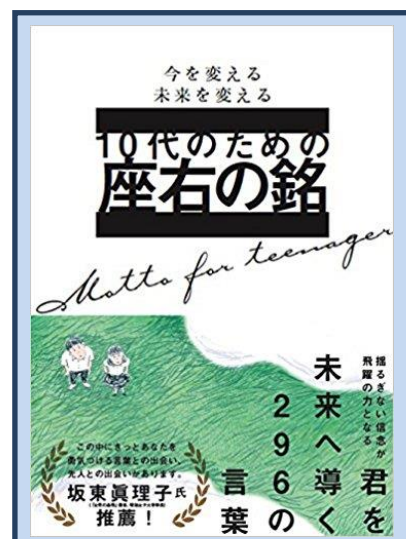
新年度初の発行ということで、常井校長先生から生徒の皆さんへのおすすめの本を一冊紹介していただきました！

『今を変える 未来を変える 「10代のための座右の銘」』

人は生きていく中で、悩んだり、壁に突き当たったりすることがあります。そのようなときに支えになってくれるものの一つが先人の言葉です。

誰も人生は一度きりです。多くの先人が残した言葉は、今を生きる、未来を生きていく皆さんの指針になります。

この本を読んで、皆さんにとって特別な言葉となる「座右の銘」が見つかることを願っています。



～新任の先生方のおすすめの本～

金澤教頭先生 『友情』 武者小路実篤

野島と大宮はお互いを尊敬しあう一番の親友です。野島は杉子という女子に恋をして、大宮に打ち明けます。大宮も親身になって間を取り持とうとしてくれました。（彼も内心では杉子に心を寄せていますが、野島のためにあえて彼女に冷たく接しています。）

ところが、杉子は野島のことが生理的に嫌いで、大宮に恋をします。

大宮はどうしたのか？あなたが大宮ならどう対応するか？

青春・友情・恋愛…

心がきゅんと締め付けられます。



綿引教頭先生 『この国のかたち』 司馬遼太郎

高校2年生の時、恩師から司馬遼太郎の「街道を行く」を勧められ読み始めました。

日本各地の埋もれた歴史を紐解き、分かりやすく説明してくれています。その後、司馬遼太郎の作品にはまり、小説をはじめとして、対談集や随筆だけでなく、司馬遼太郎に関する評論ものまで読み漁りました。

司馬遼太郎の作品の中で最も印象深い作品は「この国のかたち」という本です。この作品は、エッセイというか随筆というか…、人によっては『日本、或いは日本人への憂い(指針)』と言う人もいて、色々と考えさせられる作品です。

この本を読んで、改めて日本や日本人について考えるようになりました。

☆ご協力をお願い☆

図書館では本棚の整理のために、ティッシュの空き箱を集めています。不要の空き箱は捨てずに、図書委員もしくは図書館までいただけるとありがたいです。ご協力をお願いします！



編集後記

ねむいです。冷蔵庫のプリン食べていいよ。(´ω`)

…ではまた来月！